

2015 年度

地理学野外実習報告書Ⅷ

松 山

MATSUYAMA

平成 29 年 3 月

信州大学教育学部自然地理学研究室

まえがき

2015年度の地理学野外実習は、2015年9月22日～27日までの5泊6日の日程で実施した。前半の2日間は巡検、その後の4日間に調査実習を行った。

参加者は、池田、坂本、石澤、鈴木、中村、水谷、米原、明間、荻野、小保田、羽毛田の学生11名と、引率の廣内先生、卒業生の羽生、門田、山崎を合わせた15名であった。例年のように、研究室以外の学生や研究室配属前の2年次生、そして今回は卒業生が多く参加している。

学生の多くは実習前日の9月21日22:00東京駅発の寝台特急サンライズ瀬戸に乗車し、これから始まる実習旅行に期待を寄せながら、現地を目指した。その他の参加者も、それぞれ電車や飛行機などを乗り継ぎ、現地で合流した。今回の実習は9月22日10:10にJR新居浜駅集合の予定であったが、寝台特急が遅延したこともあり、大幅に遅れてのスタートとなった。初日の巡検では、別子銅山、西条市の水、中央構造線湯谷口露頭などを観察し、「やすらぎの宿 でんこ」で一泊した。2日目は、八釜罅穴、四国カルスト、内子の町並みなどを観察するコースであった。四国カルストはあいにくの霧模様で、はっきりと見ることはできなかったが、中央構造線などの自然科学から内子の歴史的建造物などの人文科学にわたる幅広い分野のものについて観察することができた。巡検最終日である23日の夜は、翌日から始まる調査実習に向けてミーティングを行い、それぞれの準備を行った。

調査実習の拠点は、愛媛県の県庁所在地でもある松山市で、ビジネス民宿松山に宿をお世話になった。24日からは、各自が事前に決定し、準備を進めてきたテーマに沿って、各々の調査を実施した。調査は活断層、地形発達、沖積低地、災害といった自然地理学分野から、観光などの人文地理学分野まで、様々なテーマに取り組んだ。

学生は個人調査に先立ち、事前に資料収集や予察分析を行い、現地では踏査および掘削調査、測量、聞き取り調査等を行いデータの収集に務めた。調査は主に単独で行い、必要に応じて先輩や後輩と一緒にいった。先輩は後輩に技術を継承し、逆に先輩諸氏は、後輩の新しい視点からの発想に気付かされた。

また、実習前に3回の事前指導会、実習後に3回の事後指導会が開かれ、廣内先生の丁寧なご指導の下、皆忙しい中合間をぬって調査準備や分析、まとめを行った。本報告書はその成果をまとめたものである。懸命にデータに向き合った学生の努力の結晶をご覧いただけたら幸甚である。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料の収集、聞き取り調査にご協力いただいた各行政機関、団体、地域の皆様、会社や個人の方々に心から御礼申し上げます、ここに感謝の意を表します。

平成29年3月

池田一貴（信州大学自然地理学研究室 OB）

2015 年度地理学野外実習報告書Ⅷ

松山

【目次】

まえがき

屈曲率を用いた中央構造線活断層帯川上断層西部の活動度 1
米原和哉

松山平野北西部における沖積低地の堆積環境 7
鈴木理恵

更新世後期における石手川周辺の堆積環境 13
中村俊幸

中央構造線断層帯伊予断層南西部，米湊断層の変動地形と活動 19
水谷光太郎

平成 13 年の豪雨における重信川支流での浸水被害 26
荻野貴大

水害常襲地域・重信川流域における防災意識調査 35
小保田春加

愛媛県松山市における芸予地震の住宅被害と地形との関係 43
羽毛田紀音

道後温泉における観光客増加に向けての取り組みとその効果 48
明間奈津紀

あとがき